

# 「三方よし」の精神を継承する グローバルビジネスリーダーの育成

兵庫県立伊丹高等学校

令和元年6月28日

# 構想概要 (申請時)



◎SGHテーマ

「三方よし」の精神を継承する

GBL(グローバルビジネスリーダー)育成プログラム開発

地域や社会に貢献するGBL

好奇心

多様性

ビジネスチャンスの発見

発信力

日本文化の理解  
異文化の受容

↓  
日本の再発見

アイデア実現を目指す提案と交渉

『食と健康』をテーマに 『企業』『大学』との連携を活用した  
「日本再発見ーこの国の『食』の強みを発信する」実践プログラムの構築

「総合的な学習の時間」の取り組み

- 学年毎段階に応じた具体的訓練を実施して自己表現力を育成
- 3年生は葛伊奈の創作劇コンクールに取り組みチームワークの中で表現力を磨く
- 1,2年生はNIEによる「定食観察～同じテーマで違いかけて～」で社会の動きを追求、考察・発表

自然科学類型「黒伊GLIS」  
育成プログラムの実践

- 年間10回の企業、大学による出前授業
- 生徒の体験学習、レポート作成・発表
- オールイングリッシュによる科学実験とレポート作成

英語の型で発信する発信力を鍛える授業

- エッセイライティング、インタビューテスト、リサーチプロジェクトによる「英語脳」づくり
- GTEC全員受験を3年目標中

国際交流校との連携活動

- 年2回の相互訪問と意見交換会の実施  
ニューヨーク市立大学附属バブルーク高校  
台中第二高級中学

小西酒造／松谷化学

- ✓「創業の精神がビジネス展開にどう生かされているか」を調査する
- ✓アメリカ、東アジアに拠点を置いた経営戦略について調査する
- ✓現地食の調査を通して日本食を見直し食文化について考える
- ✓食料・醸造、デンプン・発酵を生かした食の提案を行う

関西学院大学／京都大学／大阪大学

- ✓アメリカ、東アジアと日本の食文化を切り口に比較調査を行い、経済・文化の特質を考察する
- ✓留学生との交流、意見交換を通じて、これからの食文化について考察する

三井住友銀行

- ✓金融の仕組みを学び世界の経済動向への理解を深める

ビジネスアイデアの「みえる化」

in 伊丹 in NY in 台中 「おいしく食べて健康になる新しい食」  
課題研究報告会、意見交換会、ワークショップ の提案

高等学校におけるGBL育成プログラム(学校教材)の完成

# 構想概要 (3年目)

平成 28 年度 S G H 概要 兵庫県立伊丹高等学校

全生徒が英語外部検定を毎年2回受験

SGH 活用入試対策講座

テーマ別ディス  
カッション, 論文作成

6名が海外FWへ

イタリア・ミラノ近郊の「食科学  
大学」へ (来年度実施予定)

今年度現在、フィールドワークFWは全て国費(個人負担なし)で実施

学年発表会・ディスカッション・小論文

海外大学フェア(留学希望者の支援)

12名が海外FWへ



ニューヨーク市立  
大学付属バレーク高校  
(元々本校と交流をしていた学校)

(元々本校と交流をしていた学校)

論  
述  
綜  
合

実  
験  
科  
学

SGH 60名

2学年の総合的な学習では、3種類に分かれる

320名全員がレポート作成

選抜された40名 + 「チャレンジ枠」20名

「チャレンジ枠」とは、「補欠枠」



H27年度: 東京  
H28年度: 秋田  
国際教養大学



台湾国立台中第二高級中学  
(元々本校と交流があった学校)

約40名が国内外のフィールドワークFWへ

2回の課題発表会により64名の「代表者」を選ぶ。  
他の生徒はサポーターとなり、代表者1名につき4名。

テーマは「食と健康」

全教員が総合を担当、総合以外でもSGH関連の授業



1学年生徒320名全員がSGHに取り組む  
《週1時間、総合的な学習での課題研究》

「三方よし」の精神を継承するグローバルビジネスリーダー育成プログラム開発 兵庫県立伊丹高等学校

3  
年

2  
年

1  
年

# 構想概要 (中間評価 以降)



◎SGHテーマ

「三方よし」の精神を継承する

GBL(グローバルビジネスリーダー)育成プログラム開発

情報紹介型研究から課題解決型研究へ

—さらなる協働的な学びと探究活動の充実—

## プログラム改善案の3本の柱

①食のとらえ直し

食を見取る視座の拡張  
(リサーチクエスションの多様化)

②エビデンスに基づく  
課題研究の確立

客観的データを用いた検証

③リサーチスキルの  
総合的開発

・情報収集  
(実験、アンケート、インタビュー、文献など)  
・データ分析  
(集めた情報から得られる考察)  
・論理的思考、論文作成

生徒に身につけさせたい3つの力  
・課題発見力 ・ 課題解決力 ・ 提案力

<この3年間の取り組み>

「おいしく食べて健康になる新しい食」の提案を考える

商品開発

小さなビジネス体験

海外FW体験  
国内FW活動

英語による発信

一定の成果は得られた。

課題...商品開発がメインになった。

今後は、リサーチ力と論理的思考の構築に重点を置く。

普通科高等学校におけるGBL育成プログラム(学校教材)の完成

# 地域連携（協力企業）

・小西酒造株式会社



・松谷化学工業株式会社



・三井住友銀行伊丹支店



# 大学連携

• 立命館大学



• 神戸大学

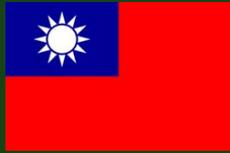


• 京都大学



# 海外との連携

・台湾



臺中市立臺中第二高級中等學校

台中市立台中第二高級中等学校

・アメリカ合衆国



ニューヨーク市立大学附属バルーク高校



・イタリア



食科学大学



Università di Scienze  
Gastronomiche di Pollenzo

University of Gastronomic Sciences of Pollenzo

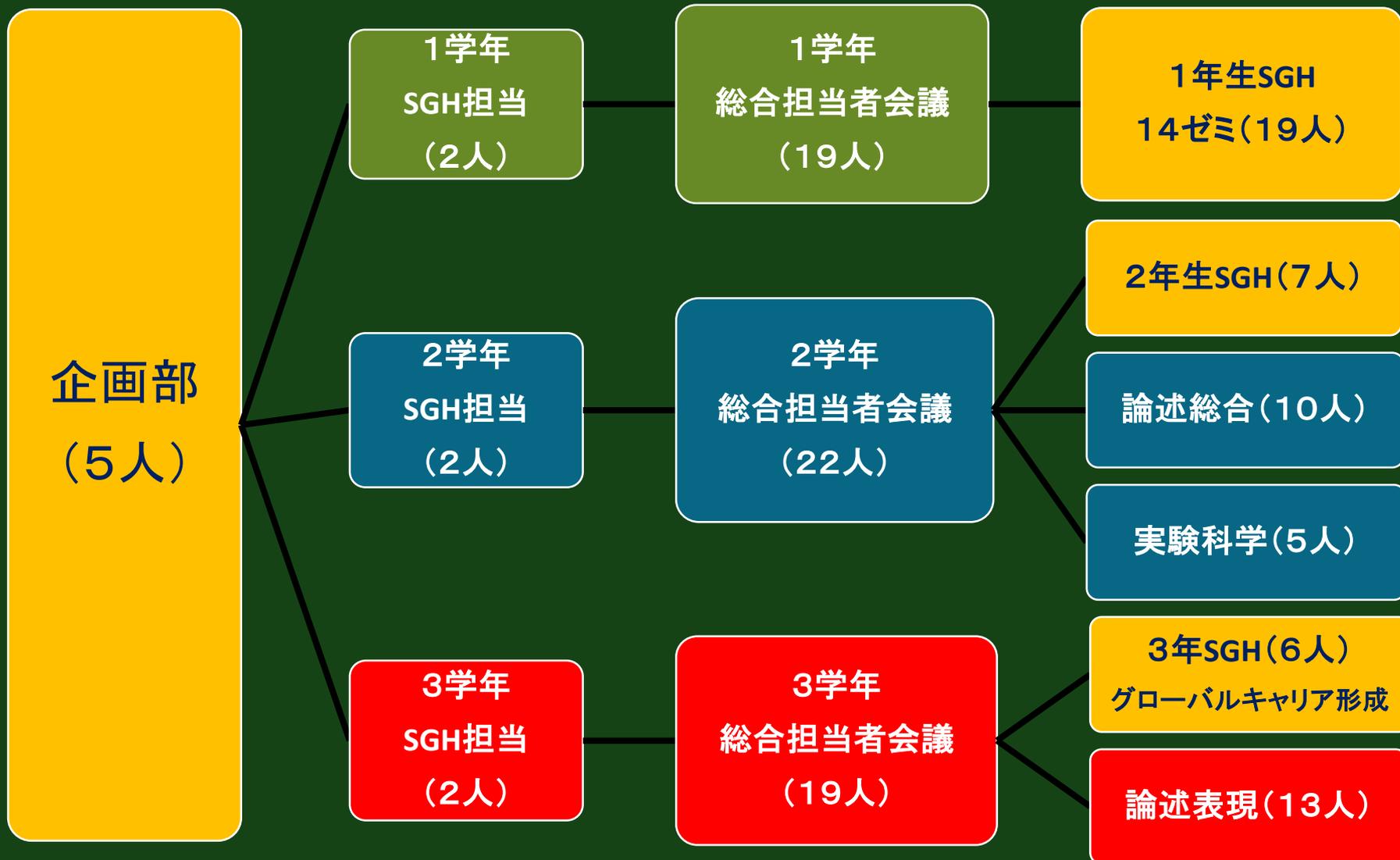
# プログラムの運営

- ・総合的な学習(探究)の時間

1年～3年 週1単位

- ・1年生は全員が対象
- ・2・3年は継続生とチャレンジ生が対象
- ・原則全教員が総合を担当
- ・2・3年では担当者は複数配置
- ・1年はゼミ担当(生徒4人×5グループ)  
※主担当・副担当制とし、担当者の教科が  
重ならないように配置

# 校内組織の運営(担当教員数)



# 総合的な探究(学習)の時間 内容

# 1年「総合的な探究の時間」

学期	項目	内容
1学期	4分野講演会	・4分野×3 12テーマより希望調査
	グループ・ゼミ決定	・ゼミ(4人組×5グループ) テーマ設定
	ゼミ内中間報告会	・フィードバック、テーマ修正、夏期リサーチ計画
夏休み	リサーチ	・各自でリサーチ(文献調査、実験、観察など)
2学期	研究計画書作成	・グループ内で夏期リサーチ内容を共有
	合同ゼミ中間報告会	・2つのゼミを合わせて実施
	合同ゼミ成果発表会	・ポスター発表、各ゼミ内最優秀グループ選出
冬休み	研究要綱作成	・研究論文のアウトラインを作成
3学期	校内成果発表会	・代表6グループの発表 →3グループを選出
	校外成果発表会	・校外会場で1年3グループ(2年2人)の発表
	研究論文完成	・個人で作成した研究論文を提出

# 2年 「総合的な学習の時間」

学期	SGH	論述総合	実験科学
1学期	テーマ設定(春課題)	NIEグローバル課題研究	全体オリエンテーション
	中間報告会	グループワーク	テーマ別ゼミに分かれ 実験的課題研究Ⅰ
2学期	フィールドワーク計画	クラス内発表	テーマ別ゼミに分かれ 実験的課題研究Ⅱ
	フィールドワーク	グループワーク	
	リサーチペーパー作成	ポスター作成	
	国別成果発表会	ゼミ内発表会	
3学期	校内成果発表会	総合発表会	
	校外成果発表会	小論文学習	
	リサーチペーパー完成	小論文からの発展	

# 3年 「総合的な学習の時間」

学期	SGH・グローバルキャリア	論述・表現活動
1学期	リサーチペーパー完成 志望理由の書き方	論述ウォーミングアップ 志望理由の書き方
2学期	グローバルキャリア形成	批判的思考の養成／小論文対策

# 課題研究の指導の工夫(1年)

本校のテーマ「食と健康」

4分野 × 3テーマ

「食と人間」・・・運動、健康、心理

「食と自然」・・・化学反応、DNA、微生物

「食と文化」・・・歴史、宗教、文化

「食と社会」・・・経済、IoT、AI

計12テーマ

# 課題研究の指導の工夫(1年)

## グループ内の温度差の解消のために

- ① 関心の高いキーワードで  
テーマ設定
- ② 複数の担当をつける

# 課題研究の指導の工夫(1年)

グループ内の温度差の解消のために

## ①テーマ設定

やりたいことではない → 意欲の低下をまねく

関心度を点数化し、  
グループ全体の総意でテーマ設定！

# 課題研究の指導の工夫(1年)

グループ内の温度差の解消のために

## ②複数の担当をつける

各ゼミに主・副担当を充て、フォロー

ルーブリックで評価しフィードバック

「総合的な探究(学習)の時間」  
以外との結びつき

職員研修  
研究授業



探究活動を各教科へ波及

# 評価方法

評価ルーブリック

GPS-Academic

英語外部検定

アンケート・意識調査

# 海外研修(フィールドワーク)

1年・・・台湾

2年・・・ニューヨーク

イタリア

# 1年 台湾フィールドワーク

期間 : 6日間 (12月下旬)

訪問先 : 台中市

活動内容: フィールドワーク  
ホームステイ  
姉妹校にて授業参加  
プレゼンテーション等

## 2年 NYフィールドワーク

期間 : 7日間 (9月中旬)

訪問先 : ニューヨーク市

活動内容: フィールドワーク

企業訪問

姉妹校にて授業参加

プレゼンテーション等

## 2年 イタリアフィールドワーク

期間 : 7日間 (10月下旬)

訪問先 : ミラノ市、ブラ市 他

活動内容: フィールドワーク  
食科学大学訪問  
プレゼンテーション等

# 成果のエビデンスについて

- ✓ 意識調査や

  - SGHアンケート調査

- ✓ GPS-Academic

- ✓ 英語外部検定

# 成果のエビデンス 意識調査による活動の振り返り

実施時期: 2年生の1学期

実施内容: 1年生の1年間の活動の振り返り

- ①やる気の推移をグラフ化
- ②最も意欲の高かった活動(理由も)
- ③最も意欲が低下した活動(理由も)

実施目的: 生徒たちの意欲を高める活動プログラムが組んでいるかの検証

# 成果のエビデンス

## SGHアンケートによる成果の検証

実施時期: 1月

対象: 全学年の生徒とその保護者、教員

実施内容: 「好奇心」「多様性」「発信力」を軸にした質問を4段階で評価する

実施目的: SGHプログラムの成果の検証

# 成果のエビデンス

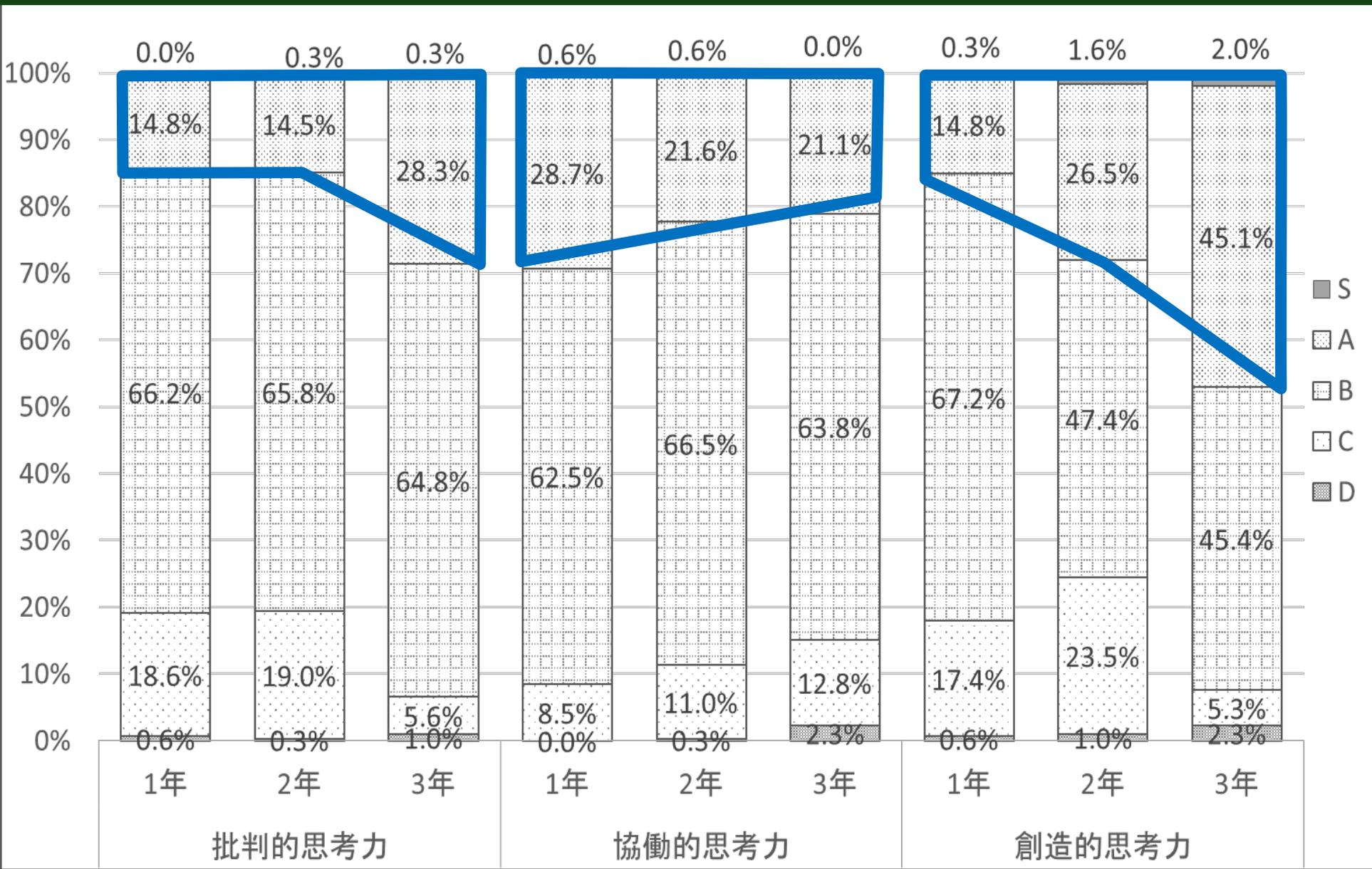
## GPS-Academicによる思考力の測定

実施時期: 2学期末(12月)に全学年実施

測定内容: 3つの思考力について6つの観点  
で到達レベルを測定

実施目的: 生徒たちの力を客観的データで  
測定する

# 7 1 回生 (SGH 2 期生) 3つの思考力の総合評価



# 成果のエビデンス 英語外部検定

実施時期：年2回（7月と12月）

（3年生はオフィシャルスコアを得る  
ため希望者のみの外部受検）

実施内容：4技能のレベル測定

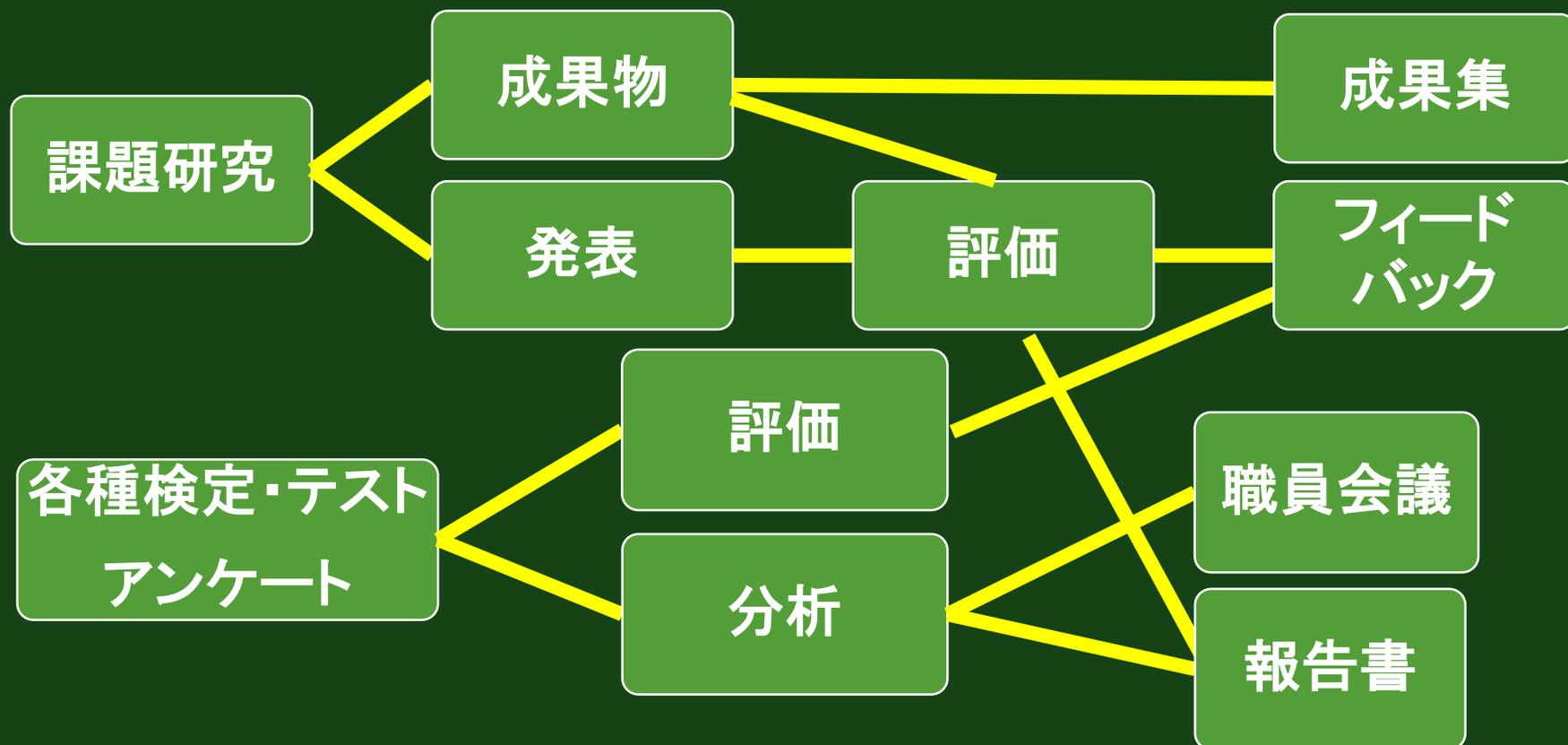
実施目的：①英語力の伸長測定

②検証とプログラム開発への活用

# 各回生の1年生と3年生のCEFRレベルの比較

	卒業 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	現2年 生	現1年 生
	CEFR レベル	—	—	—	SGH 1期生	SGH 2期生	SGH 3期生	SGH 4期生
1年 初回	B1以上	0	0	0	1	0	4	0
	A2	11	16	41	52	26	280	154
	A1以下	309	303	279	262	294	34	165
3年	B1以上	4	1	2	42	15	—	—
	A2	198	150	187	199	151	—	—
	A1以下	107	160	119	19	27	—	—

# 校内での成果の共有の仕方



# 成果課題、成果普及について

- ・中間評価以降のプログラムの改善により、課題解決型の研究となるような運営方法、指導方法およびプログラムの確立ができた。

# 成果課題、成果普及について

- ・活動ごとに指導者からの評価を生徒にフィードバックする方式を定着させ、多くの教員が参画する体制が整った。

# 成果課題、成果普及について

- ・「三方よし」の視点がやや薄れてきている。「グローバル」とより良い社会のための視点の投げかけが必要。

# 成果課題、成果普及について

- ・グループによっては成員間の温度差による人間関係の不調や活動の停滞が生まれた。担当教員を複数にし、支援体制を強化する。

# 成果課題、成果普及について

- ・教員間ではSGH活動や総合的な探究の時間の活性化に肯定的な評価を得られている。
- ・教科の学習への広がりが一部の教科にしかまだ見られない。
- ・今年度は各教科での実践にも力を入れる。

# 今後の継続について

## ・1年生について

今年度の総合的な探究の時間と同じ取り組みを継続。

## ・2年生について

論述総合、実験科学の2講座

## ・3年生について

論述・表現、グローバルキャリア形成の2講座